



はるっこ

学校教育目標

～豊かな感性、確かな学力を身に付け、
たくましく未来を拓く子どもの育成～

中原小 めざす3つの「あ」

あいさつ **あ**りがとう **あ**きらめない

北九州市立中原小学校 校長 針尾 泰久

メールの習慣と国語教育の大切さ！

「マルハラ（マルハラスメント）」という言葉が話題になりました。メール文の文末に句点「。」を打つことによって、若者が恐怖感を感じることからハラスメントと言われるようです。LINEのようなアプリ上のやりとりは、単語や短文が続く会話のようなやりとりです。そこで「。」は、流れを断ち切られるような恐怖を感じるのだろう、と分析する声もあります。

学校の国語の時間には、句点「。」や読点「、」を適切に打つことを指導しています。意味のまとまりや区切りが分かるようにするための符号です。区切りをはっきりさせることは、書き手の側にも読み手の側にもメリットがあります。特に句読点は「読み手への配慮のため」と言ってもよいでしょう。

また、メールのメッセージでは、書き出しや改行のときに一文字分下げのような習慣はなくなってきています。しかし、国語の時間では、いずれの場合も一文字分空白を作って意味のまとまり（段落）が見えるように指導しています。句読点も段落も文章の読み書きに必要な基礎的な知識です。はがきや手紙を書く機会があれば、子どもたちにぜひ使ってほしいと願っています。

「中原小の子どもさんは、すばらしいですね！」

先日、地域の方から次のようなうれしいお話をいただきました。

たこ公園の近くで、年長者が手押し車を押しながら買い物から帰宅中に、年長者が倒れて困っている様子を中原小の子どもたちが一生懸命に助けていましたよ。通行してくる車から年長者を守ろうと車に合図をしたり、手押し車が通行する車に当たらないように避けたりとその姿に感動しました。中学年くらいのお子さんでした。年長者も、大変助かったという感じで受け止められていたようです。うれしかったので連絡させていただきました。

後日、このような行動を取った素敵な子どもたちは3年生の男児2名と分かりました。3年生男児2人については、全校児童に伝えました。後日、本校の宝であると地域の方々には機会を見つけて自慢したいと思っています。

友だちやお年寄りまわりの人を大切にします

自分を育てるために「北九州市 子どもの誓い10か条」より